

第277回教育研究評議会議事要録

1. 日 時 平成29年2月14日（火） 13:30～15:35
2. 場 所 事務局 第2会議室
3. 出席者 中井学長、中田理事・副学長、三浦理事・副学長、小沢理事・副学長、
若井理事・事務局長、真田副学長、千葉副学長
千葉人間発達文化学類長、朝賀評議員、谷評議員
久我行政政策学類長、田村評議員、鈴木評議員
阿部経済経営学類長、伊藤評議員、佐野評議員
二見共生システム理工学類長、山口評議員、佐藤評議員
難波環境放射能研究所長、初澤うつくしまふくしま未来支援センター長
【オブザーバー】青柳農学系教育研究組織設置準備室室長
上井監事、橋本監事

4. 欠席者 なし

5. 議事

【審議事項】

- (1) 食農学類（仮称）創設に関する各学類からの教員・学生抛出数について（戻り報告）

各学類長から、第276回教育研究評議会（1月31日開催）において審議され、各学類教員会議に意見聴取していた標記について、各学類教員会議における意見聴取の結果について戻り報告があった。

千葉人間発達文化学類長から、抛出数の一律削減検討における基準、今後の大学院見直し検討については各研究科の定員未充足状況なども反映すべきであること、教員の人事管理に関する教育研究院での今後の議論、特に、ポイント制度や各学類の裁量の程度を早期に提示してほしいことなどの意見が出されたことについて報告があった。

久我行政政策学類長から、食農学類（仮称）の特に学生募集に関する持続可能性、抛出後の各学類におけるカリキュラム等の見直しに関する不安などの意見が出されたことについて報告があった。

阿部経済経営学類長から、本件に直接関係する意見はなかったが、今後の第3期、第4期の大学院改革等について強い関心があったとの報告があった。

二見共生システム理工学類長から、財政シミュレーションの見直しへの危惧、教育費の削減による教育研究の質の低下への懸念、食農学類（仮称）と理工学類の教育上の連携による理工学類の負担増への不安などの意見が出されたことについて

報告があった。

以上の戻り報告を受け、中田理事・副学長から、①東日本大震災を踏まえ本学が掲げる戦略の一つに食農学類（仮称）の設置があり、各学類の協力を得ながら進めていきたいこと、②第4期へ向けた大学院の見直しについては定員の充足状況も勘案しつつ対応していく可能性があること、③今後の人件費管理については、現在ポイント制度の具体化を進めており、改めて教育研究評議会にも提案予定であること、また、特任教員等の活用・調整は教育研究院で今後検討していくこと、④各学類の見直しは容易ではないが、全学教育改革WGで議論しているアクティブラーニングや実践的学習の活用は魅力あるカリキュラム構築のポイントとなるため、学類でも工夫して取り組んでほしいこと、⑤食農学類（仮称）と理工学類の連携やその他の学類の連携は今後調整し工夫する必要があるが、一つの学類の負担が増えないよう調整していきたいことなどについて説明があった。また、それらのまとめとして⑥食農学類（仮称）設置を含めた組織見直しを迅速に進め、大学のリニューアルを図るスタートを切るためにも、今回の教員・学生拠出数の提案について了承をいただきたいとの発言があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

（2）学内諸規則等の改正について（戻り報告）

各学類長から、第276回教育研究評議会（1月31日開催）において審議され、各学類教員会議に意見聴取していた標記について、各学類教員会議における意見聴取の結果について戻り報告があった。

千葉人間発達文化学類長から、特段の意見がなかったことの報告があった。

久我行政政策学類長から、休学者の復学と不整合のないよう運用を検討してほしいこと等の意見が出されたことについて報告があった。

阿部経済経営学類長から、学生や学生を指導する教員にとって重要な改正であるため、周知を徹底してほしいとの意見が出されたことについて報告があった。

二見理工学類長から、特段の意見がなかったことの報告があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

（3）平成29年度国立大学法人福島大学年度計画について

中田理事・副学長から、各副学長のもとで策定された平成29年度・年度計画内容について説明するとの発言があり、引き続き各理事・副学長から、資料3に基づき内容の説明があった。

質疑応答の中で、各年度計画の財政的な裏づけがあるかを確認すべきであるとの

意見や、若手研究者と女性研究者のそれぞれ質の異なる課題を一つの年度計画に併記していることへの質問が出された。

中井学長から、財政的な裏づけについて、今後財務課と連携しながら確認を行っていくとの発言があった。また、小沢理事・副学長から、研究活性化の観点において、若手研究者と女性研究者の課題を解決することが重要であると認識のもと中期計画において併記しており、この中期計画を受けて年度計画を策定したとの説明があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

(4) 福島大学3ポリシーの策定について

真田副学長から、資料4に基づき、3ポリシーについて学校教育法施行規則の一部改正により平成29年4月1日以降すべての大学等において策定・公表が義務化されたため、関係委員会の議を経て3ポリシーを策定したことの説明があり、続いて、三浦理事・副学長から、内容について説明があった。

質疑応答の中で、三浦理事・副学長から、全学3ポリシーは具体的な実行性を求めるものではないため、各学類で副次的に必要なものを盛り込んでほしいこと、全学3ポリシーを基にして各学類の特徴を示してほしいこと、また、来年度以降に各学類へポリシーのひな形や記載方法等を提示しそれに併せてポリシーを策定してもらい、全学ですりあわせを行っていく予定であることなどの説明があった。

審議の結果、教員控室に資料掲示の上、各学類教員会議へ意見聴取し、第278回教育研究評議会(3月7日開催予定)にて各学類から戻り報告をすることとした。

【報告事項】

(1) 福島大学貴重資料保管室運営委員会規程の制定について

千葉副学長から、資料5に基づき、福島大学貴重資料保管室運営委員会規程が制定されたことについて報告があった。

意見交換の中で、千葉副学長から、第3条第1項第三号に規定する4分野の教員は各学類から選出するのではなく、それぞれ専門分野の教員を指名して選出することなどの説明があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

(2) 学長選考会議における学長の業務執行状況の確認に基づく中間評価結果について

二見学長選考会議副議長から、資料6に基づき、学長選考会議が行った学長の業務執行状況の確認に基づく中間評価結果について報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

(3) その他

- ・ 中井学長から、人間発達文化学類からの教員人事提案（所属教員の休職延長 3/1～）について、3/6 の人間発達文化学類教員会議を経て第 278 回教育研究評議会（3 月 7 日開催予定）において提案し、事後審議することについて確認があった。